

小児看護技術論

必修 開講年次：3年次後期 科目区分：演習 単位：1単位 講義時間：30時間

■**科目のねらい**：健康障害をもつ子どもとその家族に必要な基本的看護技術を理解し、効果的な看護を展開するための技術を学生自らが主体的に習得し、看護実践能力の向上をめざす。また、子どもとその家族を対象とした援助技術について看護過程を展開しながら学ぶ。

■**到達目標**：①子どもと家族の健康生活への支援について習得し、対象に合わせた援助方法がわかる。
②小児看護に特有な看護技術について習得し、状況に応じた援助方法がわかる。
③事例演習を通して、子どもと家族に必要な看護過程の展開ができる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎三上 智子・上村 浩太・松浦 和代

■**授業計画・内容**：

第1・2回 コースオリエンテーション

小児看護における看護過程・模擬事例グループワークミーティング

第3～13回 小児看護に特有な看護技術

- ①バイタルサインズの測定
- ②身体計測
- ③フィジカルアセスメント
- ④食事の援助（調乳・授乳・経管栄養法）
- ⑤清潔の援助（オムツ交換・入浴・口腔ケア）
- ⑥日常生活場面でおこる事故とその予防
- ⑦救急看護（心肺蘇生）
- ⑧転倒・転落の予防
- ⑨検査・処置時の援助（尿検査など）

*技術演習は小グループに分かれ、変則的な時間配分のプログラムで実践する。

第14・15回 模擬事例における看護過程の展開

グループワークの発表・まとめ

*複数事例の中から1事例を選び、患児と家族に必要な看護計画を立案する。

また、看護計画をもとに、患児や家族への指導や説明の資料を作成し、発表する。

■**教科書**：新体系看護学31小児看護学②健康障害をもつ小児の看護 メヂカルフレンド社

■**参考文献**：適宜紹介する

■**成績評価基準と方法**：

| 評価方法 | 到達目標 | | | 評価基準 | 評価割合 (%) |
|-----------------|-------|-------|-------|--------------------------|--------------|
| | 到達目標① | 到達目標② | 到達目標③ | | |
| 定期試験 | ◎ | ◎ | | 講義内容の理解(基礎知識60%、応用問題40%) | 65 |
| 小テスト 授業内レポート | ○ | ○ | | ポイント理解 | 20 |
| グループワーク | ○ | ○ | ◎ | グループワーク参加態度 提出物の内容 | 10 |
| 授業態度 | ○ | ○ | ○ | 積極的な姿勢・提出物期限 | 5 |
| 出席 | | | | 2/3以上の出席 | 定期試験 受験資格 |
| e-Learning | | | | 自学自修状況の参照 | 0 |

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：小児看護学概論、小児看護援助論、疾病治療学概論、疾病治療学A・B・C、症状マネジメント論、人間発達援助論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：関連科目で学習した内容をしっかりと復習して臨んで下さい。学んだ技術は積極的に練習を行い、修得しましょう。